

「チバニアン」 GSSP申請論文における疑問点

<その7>

本協議会が研究不正を告発した後に行われた
Simon et al.(2019) データ表の書き換えについて

※本章は、当ホームページ2020.8.29付の記事


「『チバニアン』GSSP申請論文での「科研費研究活動における特定不正行為の疑い」を学術振興会に告発」により
Simon et al.(2019)において試料採取場所の改ざん行為が行われたことを報告した後
2020.10.16にSimon et al.(2019)のデータ表が書き換えられ、告発対象となった箇所が変更されたので
書き換えられた内容とそこから生じた問題点について述べる。



Simon et al.(2019) Dataset: https://www.researchgate.net/publication/333641807_High-resolution_10Be_and_paleomagnetic_recording_of_the_last_polarity_reversal_in_the_Chiba_composite_section_Age_and_dynamics_of_the_Matuyama-Brunhes_transition_-_DATA

経緯

- 2020.1.17 : 本協議会ホームページにおいてSimon et al.(2019)の試料採取場所に関する疑問点を指摘。
(「『チバニアン』GSSP申請論文疑問点(その5)～比較した古地磁気データの矛盾～」の2点目の疑問)
<https://www.paleokantogeo.org/post-2478/>
- 2020.7.30 : 意図的な改ざん行為である事が判明したため、科研費提供元である日本学術振興会へ告発
(日本学術振興会から情報・システム研究機構(国立極地研究所)と茨城大学へ文書が回付)
<https://www.paleokantogeo.org/post-2864/>
- 2020.8.29 : 上記告発文書の本協議会ホームページ上で公開
- 2020.9.1 : 情報・システム研究機構(国立極地研究所)・茨城大学より「本調査は必要ない・不正行為には該当しない」
との連絡
- 2020.10.16 : Simon et al.(2019) Datasetが書き換えられる。
https://www.researchgate.net/publication/333641807_High-resolution_10Be_and_paleomagnetic_recording_of_the_last_polarity_reversal_in_the_Chiba_composite_section_Age_and_dynamics_of_the_Matuyama-Brunhes_transition_-_DATA

Simon et al.(2019) 補足データの公開場所

 Download PDF
 [View Open Manuscript](#)

Earth and Planetary Science Letters
 Volume 519, 1 August 2019, Pages 92-100

High-resolution ^{10}Be and paleomagnetic recording of the last polarity reversal in the Chiba composite section: Age and dynamics of the Matuyama–Brunhes transition

Quentin Simon ^{a, *}, Yusuke Suganuma ^{b, c}, Makoto Okada ^d, Yuki Haneda ^d, ASTER Team ^{a, 1}

[Show more](#)

[Share](#) [Cite](#)

<https://doi.org/10.1016/j.epsl.2019.05.004>
[Get rights and content](#)
 Under a Creative Commons license [open access](#)

Simon et al.(2019)のベリリウム同位体および古地磁気測定データは左図の論文が公開された学術誌のホームページではなく「ResearchGate」という研究者のためのSNSで公開されている。

GSSP提案申請に関する他の論文（Okada et al.(2017)など）の補足データは全て左図の様な論文が公開された学術誌のホームページ内で公開されておりSimon et al.(2019)のみ、上記SNSのサイトで公開されている点が以前から疑問であったため定期的にデータ表を確認していたところ今回補足データの書き換えが判明した。


<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0012821X19302651>

より抜粋

ResearchGate

ResearchGate Search for publications, researchers, or questions or Discover by subject area

Advertisement







Data PDF Available

High-resolution 10Be and paleomagnetic recording of the last polarity reversal in the Chiba composite section: Age and dynamics of the Matuyama–Brunhes transition - DATA

May 2019
Projects: [Timing of geomagnetic excursions and reversals](#) · [Changes in the Geomagnetic Dipole Over the Past 5Ma](#)

Authors:

-  **Quentin Simon**
#124.1 · Centre Européen de Recherche...
-  **Yusuke Saganuma**
#130.77 · The Graduate University for Ad...
-  **Makoto Okada**
#129.32 · Ibaraki University
-  **Yuki Haneda**
#116.04 · Geological Survey of Japan

Download file PDF

Read file

All content in this area was uploaded by Quentin Simon on Oct 16, 2020

Public Full-text (1)

Content uploaded by [Quentin Simon](#) Author content

Content may be subject to copyright.

All content in this area was uploaded by Quentin Simon on Oct 16, 2020

Sample code	Section #	Depth rel. BykE (m)	Depth rel. BykE without sandy layers (m)
TB2-410	Yoro-Tabuchi	37.50	37.50
TB2-405	Yoro-Tabuchi	37.00	37.00
TB2-400	Yoro-Tabuchi	36.50	36.50
TB2-395	Yoro-Tabuchi	36.00	36.00
TB2-390	Yoro-Tabuchi	35.50	35.50
TB2-385	Yoro-Tabuchi	35.00	35.00

https://www.researchgate.net/publication/333641807_High-resolution_10Be_and_paleomagnetic_recording_of_the_last_polarity_reversal_in_the_Chiba_composite_section_Age_and_dynamics_of_the_Matuyama-Brunhes_transition_-_DATA より抜粋 ※ふきだしと赤い枠は加筆

ResearchGateのホームページでSimon et al.(2019)の論文タイトルを検索すると補足データが閲覧できるが2020年10月16日にアップロードされたものに書き換えられてしまい、過去にアップロードされたものが閲覧できない。

データ表の変遷

プロパティ	値
作成者	Quentin Simon
前回保存者	Quentin Simon
改訂番号	
バージョン番号	
プログラム名	Microsoft Macintosh Excel
会社	
マネージャー	
コンテンツの作成日時	2019/05/07 18:35
前回保存日時	2019/06/06 17:25
前回印刷日	
コンテンツ	
内容の状態	
内容の種類	
拡大/縮小	いいえ
未更新のリンク オブジェクト	いいえ
言語	
ファイル	
サイズ	217 KB
作成日時	2020/04/14 14:11
更新日時	2020/04/14 14:11

2020年4月14日

プロパティ	値
作成者	Quentin Simon
前回保存者	Quentin Simon
改訂番号	
バージョン番号	
プログラム名	Microsoft Macintosh Excel
会社	
マネージャー	
コンテンツの作成日時	2019/05/07 18:35
前回保存日時	2019/06/06 17:25
前回印刷日	
コンテンツ	
内容の状態	
内容の種類	
拡大/縮小	いいえ
未更新のリンク オブジェクト	いいえ
言語	
ファイル	
サイズ	217 KB
作成日時	2020/05/12 3:00
更新日時	2020/05/12 3:00

2020年5月12日

プロパティ	値
作成者	Quentin Simon
前回保存者	Quentin Simon
改訂番号	
バージョン番号	
プログラム名	Microsoft Macintosh Excel
会社	
マネージャー	
コンテンツの作成日時	2019/05/07 18:35
前回保存日時	2019/06/06 17:25
前回印刷日	
コンテンツ	
内容の状態	
内容の種類	
拡大/縮小	いいえ
未更新のリンク オブジェクト	いいえ
言語	
ファイル	
サイズ	217 KB
作成日時	2020/07/27 20:28
更新日時	2020/07/27 20:28

2020年7月27日

プロパティ	値
作成者	Quentin Simon
前回保存者	Quentin Simon
改訂番号	
バージョン番号	
プログラム名	Microsoft Macintosh Excel
会社	
マネージャー	
コンテンツの作成日時	2019/05/07 18:35
前回保存日時	2019/06/06 17:25
前回印刷日	
コンテンツ	
内容の状態	
内容の種類	
拡大/縮小	いいえ
未更新のリンク オブジェクト	いいえ
言語	
ファイル	
サイズ	217 KB
作成日時	2020/08/05 13:01
更新日時	2020/08/05 13:02

2020年8月5日

プロパティ	値
作成者	Quentin Simon
前回保存者	Quentin Simon
改訂番号	
バージョン番号	
プログラム名	Microsoft Macintosh Excel
会社	
マネージャー	
コンテンツの作成日時	2019/05/07 18:35
前回保存日時	2019/06/06 17:25
前回印刷日	
コンテンツ	
内容の状態	
内容の種類	
拡大/縮小	いいえ
未更新のリンク オブジェクト	いいえ
言語	
ファイル	
サイズ	217 KB
作成日時	2020/09/14 21:50
更新日時	2020/09/14 21:50

2020年9月14日

プロパティ	値
作成者	Quentin Simon
前回保存者	Quentin Simon
改訂番号	
バージョン番号	
プログラム名	Microsoft Macintosh Excel
会社	
マネージャー	
コンテンツの作成日時	2019/05/07 18:35
前回保存日時	2020/10/16 18:25
前回印刷日	
コンテンツ	
内容の状態	
内容の種類	
拡大/縮小	いいえ
未更新のリンク オブジェクト	いいえ
言語	
ファイル	
サイズ	217 KB
作成日時	2020/12/01 2:52
更新日時	2020/12/01 2:52

2020年12月1日

本協議会は2020年4月14日から定期的にこの補足データ(Excel)を保存していたので各ファイルのプロパティを時系列で見比べてみた。

「コンテンツの作成日時」は、どのファイルも「2019/05/07 18:35」で一致している

「前回保存日時」が、書き換え前はすべて「2019/06/06 17:25」であったが書き換え後(2020年12月1日保存分)は「2020/10/16 18:25」に変わっている

これらより、2020年10月16日 18時25分に元のExcelファイルを書き換え上書き保存してResearchGateにアップロードし直したものと見られる。

データ表の書き換えられた箇所

2020年10月16日 以前

	A	B	C	D
1	Sample code	Section #	Depth rel. BykE (m)	Depth rel. BykE without sandy layers (m)
58	TB2-100	Yoro-Tabuchi	6.50	6.50
59	TB2-55	Yoro-Tabuchi	5.50	5.50
60	TB2-44AA	Yoro-Tabuchi	4.40	4.40
61	TB4-04	Yoro-River	4.00	4.00
62	TB4-07AA	Yoro-River	3.70	3.70
63	TB4-10AA	Yoro-River	3.40	3.40
64	TB4-13AA	Yoro-River	3.10	3.10
65	TB4-16AA	Yoro-River	2.80	2.80
66	TB4-19	Yoro-River	2.50	2.50
67	TB4-21AA	Yoro-River	2.30	2.30
68	TB4-22AA	Yoro-River	2.20	2.20
69	TB3-02AA	Yoro-River	1.95	1.95
70	TB3-05AA	Yoro-River	1.65	1.65
71	TB3-06AA	Yoro-River	1.55	1.55
72	TB3-07	Yoro-River	1.45	1.45
73	TB3-09AA	Yoro-River	1.25	1.25
74	TB3-11AA	Yoro-River	1.05	1.05
75	TB3-12AA	Yoro-River	0.95	0.95

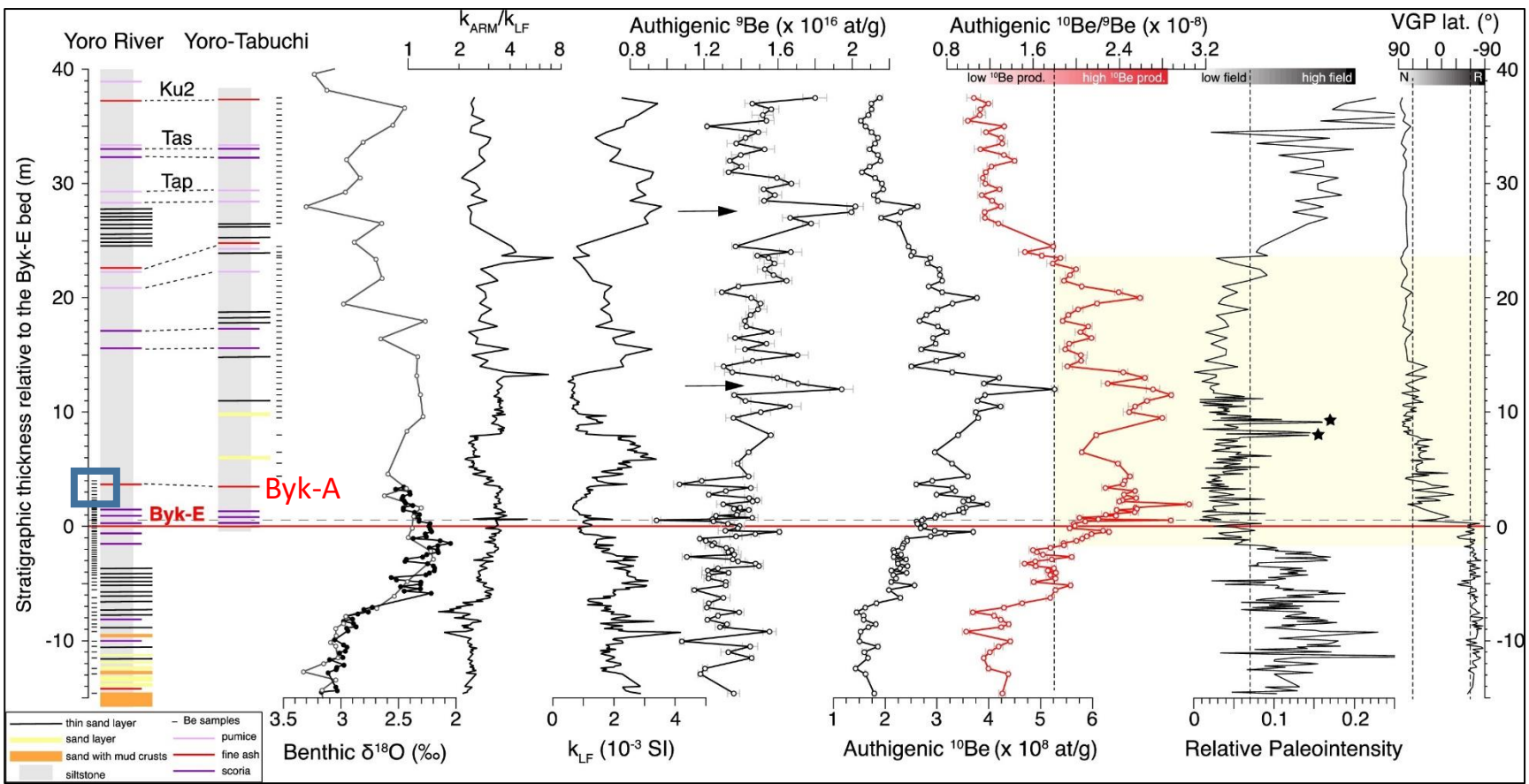
2020年10月16日 以後

	A	B	C	D
1	Sample code	Section #	Depth rel. BykE (m)	Depth rel. BykE without sandy layers (m)
58	TB2-100	Yoro-Tabuchi	6.50	6.50
59	TB2-55	Yoro-Tabuchi	5.50	5.50
60	TB2-44AA	Yoro-Tabuchi	4.40	4.40
61	TB4-04	Yoro-Tabuchi	4.00	4.00
62	TB4-07AA	Yoro-Tabuchi	3.70	3.70
63	TB4-10AA	Yoro-Tabuchi	3.40	3.40
64	TB4-13AA	Yoro-Tabuchi	3.10	3.10
65	TB4-16AA	Yoro-Tabuchi	2.80	2.80
66	TB4-19	Yoro-Tabuchi	2.50	2.50
67	TB4-21AA	Yoro-Tabuchi	2.30	2.30
68	TB4-22AA	Yoro-Tabuchi	2.20	2.20
69	TB3-02AA	Yoro-River	1.95	1.95
70	TB3-05AA	Yoro-River	1.65	1.65
71	TB3-06AA	Yoro-River	1.55	1.55
72	TB3-07	Yoro-River	1.45	1.45
73	TB3-09AA	Yoro-River	1.25	1.25
74	TB3-11AA	Yoro-River	1.05	1.05
75	TB3-12AA	Yoro-River	0.95	0.95

Simon et al.(2019) Datasetより
一部抜粋
※赤枠は加筆

データが書き換えられた箇所は、本協議会が研究不正（採取場所の改ざん）として告発対象としている箇所である。2020年10月16日以前は「Yoro-River」で採取したと偽装されたデータ（正しくは「Yoro-Tabuchi」）が2020年10月16日以後は「Yoro-Tabuchi」で採取したものと書き換えられている。

Simon et al.(2019) Fig.2



※ 筆頭著者のSimon氏に2020年4月にこの論文に関する疑問点を指摘し、返答を求めたが2020年12月10日時点では返事はない。

Simon et al.(2019) Fig.2 (2020年12月1日時点) ※青枠と「Byk-A」を加筆

学術誌に掲載されているSimon et al.(2019) Fig.2 の採取箇所(青枠が告発対象としている改ざん箇所)は2020年12月1日時点では採取場所が改ざんされたままであるが、GSSP審査が終了したためResearchGateに掲載されている補足データと同様に、今後書き換え訂正される可能性がある。
 ※青枠の採取箇所を書き換えると、GSSP1次審査において提起された「不連続」(「Yoro-River」においてもByk-EとByk-A火山灰層の両方を跨ぐ試料採取とはなっていないこと)の問題が再度浮上するため、訂正されない可能性もある。

データを学術誌に掲載する場合とResearchGateに掲載する場合の違い

学術誌の場合 : 本文はもとより、補足データに訂正があった場合であっても訂正前のデータはそのまま保全される。(訂正データは「Corrigendum」として、別途掲載され通常は各学術誌の編集者の確認を経る。)

ResearchGateの場合 : 研究者本人がアップロードするため、訂正があった場合、訂正前のデータを保全するかどうかは研究者の判断に委ねられる。そのため、訂正前のデータが削除され、訂正履歴が追えなくなることもある。(学術誌同様に別途ページを設けて過去のデータを保全しておくことも可能である。)

各研究機関の不正行為への対応の問題点① (情報・システム研究機構(国立極地研究所))

本協議会の告発文書が回付された情報・システム研究機構(国立極地研究所)の「情報・システム研究機構研究活動不正への対応に関する規程」(<https://www.rois.ac.jp/pdf/6-11.pdf>)の第13条7は以下の通りである。

第13条7 本調査委員会は、本調査にあたって、告発された事案に係る研究活動に関して、証拠となるような資料等を保全する措置をとるものとする。なお、当該保全措置に影響しない範囲内であれば、被告発者の研究活動を制限しないものとする。

「本調査を実施しなければ、証拠を保全する措置をとる必要もない」とも解釈できる。

Simon et al.(2019)のデータ表の書き換え(2020年10月16日)は情報・システム研究機構(国立極地研究所)が「本調査は実施しない」と表明した(2020年9月1日)後に行われており、規定が悪用された可能性がある。

各研究機関の不正行為への対応の問題点② (茨城大学)

情報・システム研究機構(国立極地研究所)と同様の規定が茨城大学にもある。
「国立大学法人茨城大学における研究活動上の不正行為等への対応に関する規定」
(<http://houki.admb.ibaraki.ac.jp/act/frame/frame110000852.htm>)の
第24条3は以下の通りである。

第24条3 予備調査委員会は、調査の証拠となり得る関係書類、研究ノート、実験試料等を**保全する措置をとることができる**。

「保全する措置をとることができる」であり、「義務」とは書かれていないため
本調査を実施しない前提で予備調査を行ったのであれば、保全しなかった可能性もある。

本協議会は2020年11月20日付で、両機関に予備調査資料の開示請求を行っており
12月10日に茨城大学から開示して頂いたが、資料中にはデータの保全に関する記述は
無い。情報・システム研究機構については12月22日時点では開示して頂けていない。